

「在日朝鮮人とその教育」資料集 第二集

(叢書第 第二巻に収録)

② 朝鮮人学校の教育実践の記録

〔解説〕 朝鮮人学校の具体的な営みを知るために、私たちは、現場教師の手になる実践報告をおしてみるのがよいと思い、朝教同機関紙「民族教育」から一編の報告を探ることにした。それらの報告は、いづれも一九六五年前後に書かれたものであるが、そこで行われている教育実践の基本的な構造はこんにちも持続されているから、当時集中的に公表された報告を整理することも、なお有意義なことであると判断した。

朝鮮人学校の教育の特質は、第一に民族教科の重視ということである。とりわけ朝鮮語の学習・修得ということが基本である。日本で生れ育つて朝鮮語を知らないで成長した在日朝鮮人子弟にたいして、朝鮮語の修得は朝鮮人になる第一歩であり、またこの修得なしには朝鮮人としての教育も展開できないのである。このような民族語学習の意義と実践にとりくんだ報告を、まずひとつのグループとして、私たちは編んでみた。そのさい、とうぜん、超歴史的・超階級的な民族語学習・民族教科の編成はありえないのであるから、その学習の方向性を規定する考えかたも何っておかねばならない。それは歴史教育編成のなかで端的にみることができるから、これに関する一編の論稿を併記することにした。

朝鮮人学校の教育の第二の特質は、集団主義教育の実践ということである。ひとりみんなのためにというスローガンを叫ぶことが

大事なのではなくて、ある。またそれを生徒学校では、まず教師の運動として、それをすを実践したか、その代える。私たちは、集団のグループとした、振（Ⅱ祖国の建設をに提的にすすめられてい

朝鮮人学校の教育の第二の特質は、集団主義教育の実践ということである。日本の状況のなかで、たとえば生産労働と教育の結合は困難であるように、そのとおりの実践はできないが、すくなくとも、多面的な発達をこころざしている。誰でもが民族楽器のひとつをひけるように修得する目標も、ここから来ている。私たちは、理科および音楽の教科指導の実践をみることによって、この側面の問題の理解に近づくことにした。ここでもまず教師が変わること、それによって以身作則の授業作風をおこなうこと、が教科指導の原則的姿勢になっていることがうかがえる。

以上の三グループ、九編の記録から、朝鮮人学校の教育実践の状況をおおよそ推察することができる。在日朝鮮人子弟のなかに朝鮮民主主義人民共和国の在外公民としての実質をつくりだし、そのための血のにじむような努力の軌跡がにじみでている。といっている。しかし、このような努力が学校内にとどまっ

朝鮮人戦時労働員聞き書き資料

(叢書第 第一巻に収録)

福島県 朝鮮人戦時労働員 聞き書き
調査主体：東北地方朝鮮人強制連行真相調査団
企業名：常磐炭鉱総坑 福島県石城郡好間村、その他
日本曹達株式会社社会津工場（大寺工場とも呼んだ）

証言者：李旦述

生年は1917年（年齢から推定）。慶尚南道山淸郡出身。常磐炭鉱の総坑に強制連行された。22歳の頃というが、何年のことか不明。本人が記憶する常磐炭鉱という名称に間違いがないとすれば、磐城炭鉱と入山採炭が合併して常磐炭鉱となったのは1944年3月末日なので、本人が連行されたのはそれ以後ということになる。常磐炭鉱に来て1年半余してここから逃亡して日本曹達株式会社社会津工場や、その他で働く。

聴取年月日：1975年8月9日
聞き整理：山田昭次
【凡例】〔 〕内は山田の注記

俺が常磐炭鉱の総坑に強制連行されたのは22歳の頃かな。山へ焚き木を取りに行つて帰りに捕まったのです。自分の家にも行かずに着のみ着のままで連行されました。ブタ箱に3晩か泊まって汽車に乗りました。炭鉱に着て1年半して怪我をしました。坑内で炭車を動かそうとして、巻き上げの信号をやった。そうしたら炭車が急にパーと下がってきた。それでも真ん中の柱で止まりました。それでも俺は背骨から脚をやられました。6か月入院したけど、びっこ足で松葉杖をついてやっと歩くので、仕事が出来ない。「治るまで仕事に行かない」と言ったら、労務係は轆轤を2本置いてその上に坐らせ、大きな男が膝の上に乗って殴った。痛くて我慢できないから、「仕事に行く」と言って、退院して3日目にびっこを引きながら仕事に行きました。しかし仕事が出来なくて死ぬのも、逃げて捕まって殺されるのも同じだ。どうせ生きられないのは同じだと考えて、逃げることにしたのです。仕事を再び始めて一週間ぐらいいして逃げ出したのです。季節は秋じゃなかったかな。日曜日に「小名浜に遊びに行つて来る」と言つて出て、山道をアケビを食ったりして3日ぐらいい歩いて小野新町に行き、そこのボロ屋の木下という朝鮮人の家に泊まって「こういうわけで出て来た」と話していたら、「虎の松本と言われる郡山の飯場の親分キム・ヨンギリのところへ行け」と言われました。それからは東京に行ったり、大阪に行ったりし、夏には磐梯町の親方の所に来て日暮で働いたのです。仕事はトラックで土の運搬。ただし強制連行されてきた訓練生とは絶対に一緒に仕事をさせない。監視がぐるぐる廻つて歩いて、我々と接触させないようにしているんだ。我々がトロ押しをしている時、たまに訓練生に会つて、トロを止めて話をするわけだ。会社の警備は、その時は「やい」と怒るだけで、向こうに行つてから訓練生をやるらしいですね。訓練生に行き会つと、「このあいだ、あんた達と会つて話したのを警備に見つかつてやられた」と言っていました。訓練生は夕飯の時とか、お昼の時でも、我々の所に「何か食い物はないか」と、そ一つと来るんだ。訓練生の年齢は20歳前後だね。所持持ちは減多にいらなかった。

在日朝鮮人資料叢書4

佐野通夫（こども教育宝仙大学教員）編・解説

在日朝鮮人教育関係資料

▼本資料の特色

- 朝鮮人解放後の一九五〇年代～七〇年代の在日朝鮮人教育の実態と問題点を概観・理解できる様にした。
- 在日朝鮮人教育に関する在日朝鮮人・日本人及び日本政府各々の取り組みや施策を比較考察できる様にした。
- 在日朝鮮人教育に関する種々の学術的調査・分析・報告資料等今日では入手困難な資料・文献を収録。
- 「民族教育」の歴史的背景を理解するための資料も収録。

■体裁 全3巻・A5版・上製クロス装・ケース入り
■定価 本体4,600円＋税 ISBN978-4-88774-142-0
■刊行 平成24年7月刊

在日朝鮮人資料叢書5

山田昭次（立教大学名誉教授）編・解説

朝鮮人強制動員関係資料

▼本資料の特色

- 朝鮮人の強制労働の中でも最も過酷で危険といわれた炭鉱労働に関する資料を中心に収録。
- 戦時期の常磐・筑豊地区の裁判判決書や戦時労働動員朝鮮人の聞き書き、業界新聞資料等によって、朝鮮人鉱夫に対する抑圧の実態と当時、日朝親和の標語として喧伝された「内鮮一体」の虚疑を明らかにした。
- 裁判資料は不鮮明な部分が多く、できる限り新組とした。

■体裁 全2巻・A5版・上製クロス装・ケース入り
■定価 本体2,400円＋税 ISBN978-4-88774-145-1
■刊行 平成24年7月刊

緑蔭書房

〒173-0004 東京都板橋区板橋 1-13-1
☎ 03 (3579) 5444
【消費税が別途加算されます】

取扱書店

在日朝鮮人史資料集 全2巻

叢書① 在日朝鮮人運動史研究会編『在日朝鮮人史研究』収録の附属資料を再編集し、通覧できるようにした。他の史料集では見ることのない在日朝鮮人・韓国人に関する資料を多数収録。

■定価Ⅱ 本体2,400円 ISBN978-4-88774-143-5

在日本朝鮮人商工便覧 1957年版

叢書② 在日本朝鮮人商工連合会編 樋口雄一解説 戦後初めての本格的な在日朝鮮人の商工業実態に関する全国的調査資料。なお、在日本朝鮮人商工連合会編「調査月報」の附属資料を付す。

■定価Ⅱ 本体2,000円 ISBN978-4-88774-135-2

戦後在日朝鮮人人口調査資料集 全2巻

叢書③ 長澤秀編 戦後初期の在日朝鮮人社会の構造を理解する上で不可欠な基本資料。

第1巻Ⅱ 内閣統計局編昭和二十年人口調査 第五表「朝鮮人・台湾人ノ男女及年齢ニ依リ分テタル人口数ノ表」
第2巻Ⅱ 総理府統計局編「昭和二十二年臨時国勢調査・第十表「出身地域及び国籍男女別人口」」

■定価Ⅱ 本体3,600円 ISBN978-4-88774-136-3

▼以下続刊予定

- 6 在日朝鮮人留学生資料 裴始美編
- 7 在日朝鮮人「帰還」資料 鈴木久美編
- 8 在日朝鮮人状況資料 福井讓編
- 9 在日朝鮮人生活保護資料 金耿昊編
- 10 日本在留朝鮮人の出版物 小野容照編
- 11 解放後在日朝鮮人文化運動資料 宇野田尚哉編
- 12 戦前期在日朝鮮人特集記事集 外村大編

（順不同、タイトルはすべて仮題）

在日朝鮮人運動史研究会監修

在日朝鮮人資料叢書

在日朝鮮人資料叢書4

在日朝鮮人教育関係資料 全3巻

佐野通夫編・解説

在日朝鮮人資料叢書5

朝鮮人強制動員関係資料 全2巻

山田昭次編・解説

アジア太平洋一五年戦争下（一九三七～一九四五）の強制動員朝鮮人鉱夫の実態を、裁判資料、戦時労働動員聞き書き資料、常磐炭礦朝鮮人関係資料、『労務時報』・『日本鉱業新聞』所収朝鮮人関係記事等の新資料を中心に明らかにした。

第二回配本

在日朝鮮人教育関係資料 全3巻



「朝鮮人児童生徒の生活」
（佐野通夫氏提供）

刊行の辞

解放後の在日朝鮮人運動の主要な課題は、民族教育、すなわち奪われた言葉と文化を取り戻す活動であった。それだけに、その活動を抑圧すべく激しい弾圧が加えられた。一九四五年、解放と同時に開始された民族教育は、開始された直後の一九四八、四九年に「学校閉鎖令」という大弾圧を受ける。ここでは接収され、一部地域では「公立学校」とされた朝鮮人学校が、日本独立後、再び自主学校として運営された時の困難な歩みを示す『日本にいる朝鮮の子ども』、日韓条約後、日本政府が再び弾圧のために提出した「外国人学校法案」を批判的に紹介する『いわゆる「外国人学校」制度の研究』、日本の学会がこの問題に取り組んだ『在日朝鮮人とその教育』資料集』第一集、第二集、行政が作業するための資料『学校教育法第八十三条及び第八十四条の改正経過（国会議事録抜すい）』、朝鮮学校の努力にもかかわらず、現実には多くの朝鮮の子どもたちが日本の公立学校等にも在籍し、その子どもたちの教育課題に目覚めた日本の教員たちの意識を示す「在日朝鮮人教育研究全国集会資料」を収録した。なお、この日本人教員の意識と対比し、また現在にも続いている、日本人教員が自らの教育の民族性を自覚せずに、それを普遍的なもの、絶対的なものと誤信する姿を明らかにする『半島の子ら』を併せて収録した。

収録資料

第1巻

- 一 「日本にいる朝鮮の子ども」在日朝鮮人の民族教育」李東準著 春秋社 一九五六年

在日朝鮮人の子どもたちは、戦後の民族教育の中で、はじめて自分たちの朝鮮の歴史・文化・ことばを知ることになる。その中で「半島の子ら」（第3巻所収）にみられる様に、いかにゆがめられた教育を受けてきたかを知ることになる。本書は、戦後の在日朝鮮人が自分たちの学校をどの様に設立し、日本の外国人教育政策の中で翻弄されながらも、自らの権利を守るためにどう闘ってきたか、戦後初期の在日朝鮮人学校・教育の歴史を知る上で基本的な文獻。

在日朝鮮人資料叢書5

山田昭次（立教大学名誉教授）編・解説

朝鮮人強制動員関係資料 全2巻

刊行の辞

常磐炭田や筑豊炭田などの炭礦に強制動員されて、逃走や暴動等さまざまな形態の抵抗をした朝鮮人に対する裁判所の判決書、朝鮮人・日本人両者の炭礦関係者からの聞き、朝鮮人ならびに朝鮮人を「指導」した日本人に対する炭礦の表彰状、日本人・朝鮮人炭礦労働者についての調査書、常磐炭田の朝鮮人に関する資料、『労務時報』および『日本鉱業新聞』所収の朝鮮人対策の記事など、鉱山や工場も若干は含むが、主に炭礦における朝鮮人強制労働の実態の解明に資する資料・文献を収録した。

収録資料

第1巻

- 一 朝鮮人強制動員関係裁判判決書資料（五九件）東北地方
 - 1 山形県地方裁判所検事局裁判原本 一九四一・四二年
 - ・古河鉱業永松鉱業所坑夫（五名）の会社の待遇不満への抗議（傷害被告事件）一九四一年
- 2 福島県平区裁判所検事局裁判原本 一九四〇、四五年
 - ・磐城炭礦坑夫（九名）の合宿所への待遇不満（傷害事件）一九四〇年
 - ・大日本炭礦勿来礦炭夫（九名）の朝鮮人訓練責任者への反抗（暴力行為事件）一九四三年
 - ・古河礦業好間礦業所古河炭礦採炭夫他（六名）と日本人坑夫の抗争（暴力行為事件）一九四三年
 - ・古河礦業好間礦業所古河炭礦採炭夫他（二七名）と日本人坑夫の抗争（傷害・暴力行為事件）一九四三年
 - ・大日本炭礦勿来礦夫（七名）の逃走援助（国家動員法違反幫助事件）一九四五年
 - ・常磐炭礦内郷礦運搬夫逃走（国家総動員法違反反事件）一九四五年
 - ・日曹礦業赤井炭礦労務係の逃走及び五名の逃走教唆（国家総動員法違反反事件）一九四五年
 - 九州地方
 - 1 福岡県直方区裁判所検事局裁判原本 一九四三、四四年
 - ・日満鉱業所採炭夫（六名）の日本人の暴行に対する

- 二 学校教育法第八十三条及び第八十四条の改正経過（国会議事録抜すい） 総務課審議班

・教育基本法案特別委員会議事（貴族院 一九四七年）
・文部委員会議事（衆議院・参議院 一九四九・五〇年）
学校教育法の一部改正とくに各種学校をめぐる国会における論議資料。改正の眼目が朝鮮人学校・教育の取扱いにあったことを示す資料。一九五〇、五〇年代、日本に接収され「公立学校」（分校）とされた朝鮮人学校が、日本独立（一九五二）後、自主学校として移管・再建される過程で、朝鮮人学校が所在する各自治体において、分校の調査・分析、法的問題の検討が行われ、対策・対応がとられた。本資料は、神奈川県が在日朝鮮人教育対策を協議するために、外国人学校、公立朝鮮人学校及び朝鮮人教育に関する法令や見解等を知るための参考資料として収集・作成したものと推測される。

- 三 「いわゆる「外国人学校」制度の研究―学校教育法一部改正法案の逐条的検討」 民主主義科学者協会法律部会 一九六七年

一九六〇年代後半に上程された「外国人学校」法案の内容と問題点を理解する上で概説的な資料。

「外国人学校」制度の創設を一つの内容とする「学校教育法一部改正法案」の検討を通じて、本法案の本質の問題が、在日朝鮮人による民族教育の問題に対する日本政府の態度と方針にあることを明確にした。本書は、「外国人学校」制度の基本的問題点を洗い出し、右法案が出てくる歴史的経験および法案を支えている基本的な思想について批判的検討を行っている。更に法案を逐条的に検討し、批判を加えている。

第2巻

- 『在日朝鮮人とその教育』資料集』第一集・第二集 日本教育学会教育制度研究委員会・外国人学校制度研究小委員会 一九七〇年

戦後四半世紀の在日朝鮮人の教育に関する事情を知る学術的調査資料集。第一集には在日外国人教育の問題点、在日朝鮮人教育にたいする日本政府の政策、教科書に見る朝鮮記述、教育の関心と実践のあゆみ（一九七〇年四月以前に刊行・発表された在日朝鮮人の民族教育に関する主な図書および文献を掲載）を所収。第二集には、朝鮮人学校のエ、韓国学校の教育の実

状を所収。付属資料として外国における外国人学校の調査報告書を収録。

第3巻

- 一 『在日朝鮮人教育実践と運動の確立発展をめざして』（一）（二）（三）

在日朝鮮人教育研究全国集会資料

一九七〇年代、在日朝鮮人児童生徒の八割が日本の学校に在籍していた。日本人教師らはそれらの児童生徒の教育をどうすすめるか、日本人児童生徒の意識改革をどうするかを検討するために、一九七九年八月、初めて「在日朝鮮人教育研究全国集会」を開催した。本資料は集会参加者が在日朝鮮人教育をめぐる現状についての理解が得られるように作られたものである。戦後の在日朝鮮人教育へのかわりと課題等を知る上で原点的文獻。

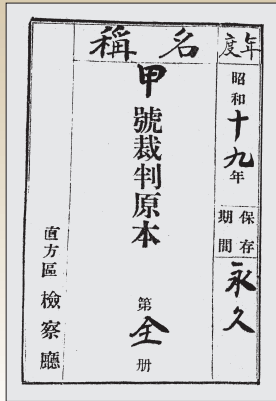
（一）「在日」を生きる朝鮮人児童生徒やその親がおかれています現実から、何を学び、何を教育の課題とするか―自分たちの手で自分たちの歴史・生活・ことばを学びたいという要求の中で、どう歩んできたか。その歴史と問題点、関西の小学校における教育実践等に関する資料を収録。

（二）全国各地の報告から―全国の日本人学校での在日朝鮮人教育の実状と取り組みについて各地域・現場からの生の報告書。

（三）大阪の報告から―戦後三〇数年、在日朝鮮人の世代構成が大きく変化する中、在日朝鮮人がかかえている教育問題にも新たな課題と多様性がもたらされ、それを取りまく日本社会の抑圧・排外状況も深刻な問題となっていた。そうした状況の中で様々な形で在日朝鮮人教育が取り組み始められた。本資料は在日朝鮮人が一番多く居住する大阪における新たな取り組みの実践記録である。

- 二 『記録小説 半島の子ら』飯田彬著 第一出版協会 一九四二年

戦後の朝鮮人学校の中で行われた、民族教育の本質や在日朝鮮人教育に取り組む日本人教員の意識を理解する上で、朝鮮の子どもたちが植民地朝鮮の日本の教育支配下の学校でどのような教育を受けてきたか、日本人教員の実態はどうであったか、その歴史を振り返ることが不可欠と考え、その補完資料として所収した。



- ・『筑豊炭礦労働者出身地調査』（抜粋） 福岡地方職業紹介事務局 一九二八年
- ・移入半島人労働者二関スル調査表 特別高等課 一九四四年三月
- 二 常磐炭礦朝鮮人関係資料（四件）
 - ・常磐炭礦争議報告『アカハタ』第三号 一九四五年一月二二日
 - ・民族差別発言のために起った常磐炭田の古河好間炭礦の朝鮮人反乱事件資料
- 三 『労務時報』所収朝鮮人関係記事（二〇件）
 - ・日立鉱山に於ける半島人労働者と語る 一九四二年一月
 - ・半島人労働者の内地移入方法とその取扱 一九四二年二月
 - ・半島人青少年工の資質練成の日本鋼管訓練隊の訓練に就て 一九四二年九月
 - ・半島労働者の諸問題と出勤労働者訓練服務心得準則 一九四二年二月
 - 四 『日本鉱業新聞』所収朝鮮人関係記事（八六件）
 - ・深刻化する労働者不足 福岡監督局の対策 一九三七年一〇月
 - ・半島人労働者を筑豊炭田に移入 十八家族を試験的に使役 一九三七年二月
 - ・社説 半島人労働者の移入を断行せよ 一九三八年三月
 - ・依然たる労力不足 注目さる、半島人移入 一九三八年六月
 - ・石炭増産対策 半島人労働者移入 三月迄に二万五千入 一九四〇年三月
 - ・半島労働者指導積極策 一九四〇年八月
 - ・本年上半期に於ける移入半島労働者の労働争議状況 一九四〇年一〇月
 - ・半島人熟練鉱夫の帰郷続出憂慮さる 各社引止策に躍起 一九四一年四月
 - ・炭礦に於ける半島移入従業員指導訓練に就て（抜粋）一七七 住友忠隈炭礦 花江良太郎 一九四一年八月一〇月
 - ・半島労働者移入漸増す 九州地方に訓練機関を設置 一九四二年一月

第2巻

- 一 九州地方炭鉱朝鮮人調査資料（四件）